

医療現場の「ホント」に迫る！



埼玉民医連



医療生協さいたま

トトロのふるさと

HOMETOWN OF "TOTORO"

For medical students and residents

医療現場のリアル

50代男性、同居家族から
関係を拒絶されたケース

松村綾先生のあゆみ

寺島萬里子Drインタビュー

トトロのふるさと*Friends

フードパントリーボランティア
参加者募集！



Emergency Room

ERからみる

社会背景

後藤 慶太郎

埼玉協同病院 救急科
部長 副院長兼任



患者さんの社会的背景と向き合う
救急医の役割とは。
救急医の後藤先生取材しました。

February

196

2023 02

©Saltama



ERからみる 社会背景

ERは「社会の窓」 患者さんのSOSを見落とさない

埼玉協同病院の救急科(ER)は、地域の救急医療の「駆け込み寺」として、重要な役割を担っています。ERの現場から見た社会の問題や、複雑な背景をもつ患者さんへの向き合い方などを、後藤医師に聞きました。

後藤 慶太郎（医師） 埼玉協同病院

一日に10台前後、 年間約4000台の救急搬送

埼玉協同病院は、「二次救急指定病院」です。入院や手術を必要とする重症の患者さんの救急医療を24時間体制で担っています。その最前線で患者さんと接しているのが救急科(ER)です。私たち救急スタッフの仕事は、“緊急性のある患者さんの状態をいち早く診て、どう対応すべきかをスピーディーに判断し、適切な処置や治療を行うこと”です。ERには、川口市や近隣のエリアから、毎日のように救急車で多くの患者さんが運ばれてきます。現在は、一日に10台前後、年間で約4000台

以上の救急搬送を受け入れています。救急車で運ばれてくる患者さんだけでなく、入院中に急変した患者さんに対応するのも、私たちの大切な役目です。

「無差別・平等」のもと、 分け隔てなく患者を受け入れる

埼玉協同病院のERに搬送される方の中には、生活保護の受給者、アルコール中毒者、ホームレス、外国人など、経済状況や生活環境が悪化し、複雑な背景をもつ患者さんがたくさんいます。

どんな事情があっても、だれもが分け隔てなく、最高水準の治療を受ける権利をもっています。また埼玉協同病院は「無差別・平等の医療」を掲げる民医連（全日本民主医療機関連合会）に加盟しています。だからこそ、救急隊からの救急要請があり、緊急だと判断した患者さんを、できるかぎり受け入れる。それがERの使命だと思っています。

信念として「断らないER」を心がけてはいますが、コロナ禍においては、断らざるを得ない状況がたくさんありました。院内クラスターが発生したり、相当数の医療従事者がコロナに罹患したり、ベッドに空きがなかったり……。想像を超えた状況が続く中、思うように患者さんを受け入れることができず、第6～7波のころは、心苦しい日々が続きました。コロナ禍も3年が経過した現在、ERの役割

profile

2000	高知医科大学（現：高知大学）卒業
2000	東葛病院（東京民医連）
2010	健和会大手町病院（福岡民医連）救急科
2011	松戸市立病院 救命救急センター
2012	東葛病院（東京民医連）救急科
2019	城南病院（茨城民医連）
2021	埼玉協同病院（埼玉民医連）救急科部長
2022	埼玉協同病院（埼玉民医連）副院長（救急科部長兼任）

Keitaro Goto



として「発熱外来」が定着化しました。流行する時期によっては、120人近く来院される日もありますが、感染対策を徹底したり、スタッフ同士で互いにカバーしあったり、大変な時期を乗り越えてきました。初期に比べると、現在は人々のワクチン接種率が高まったことで、重症化する患者さんが減少していますね。

医療が二極化する中で、 患者さんの生きづらさを察知する

私はこれまで、内科や救急科の最前線で10数年間、さまざまな生きづらさを抱える患者さんたちと向き合ってきました。近年、現場でとくに感じているのが「医療の二極化」です。医療への意識が高く、オンライン診療やかかりつけ医機能などの仕組みを使いこなす人たちと、そのような権利意識に乏しく、便利な制度も知らず、医療から遠ざかっている人たち。両者の差がどんどん開いています。社会から置き去りになって病気を患い、にっちもさっちも行かなくなった人が確実に増えているのが現状です。

ERは、「社会の窓」です。本当に助けが必要な人は、自分から助けてとは言いません。治療やケアを拒絶されたり、『死にたいからほっといてくれ』と言われたりすることもあります。でも、ほっとくことはできません。救急隊から患者さんを受け入れた瞬間から、

SDH（健康の社会的決定要因）を探るため、患者さんへの介入を始めます。

「家の中がごみ屋敷のようだった」「食べる物が何もない状態だった」などの情報を救急隊からヒアリングし、さらに患者さんの身体や衣服の汚れ具合などを確認し、本人や家族に話を聞きながら、病気の原因や生活状況の問題点を探ります。

患者さんの病気やケガを治すだけでは、根本的な問題は解決しません。私たちが患者さんの問題に気づかず、SOSを見落としてしまったら、介入できずに終わってしまいます。患者さん一人ひとりの生きづらさや病気の背景を察知し、退院後、一人でも多くの方の生活が改善できるよう、ソーシャルワーカーや支援団体、行政などにつないでいくことも、われわれERの役割の一つだと考えています。

救急の初期対応ができてこそ、 初めて社会的背景と向き合える

ほかでは敬遠されがちな患者さんを積極的に受け入れ、身体的な治療だけでなく、原因となっている背景を探り、支援につなげる。そのためには、スタッフ間のチームワークやスキルアップが欠かせません。ERには、つねに3～4人の研修医がいますが、私が彼らにくり返し伝えているのは、「まずは一人前の医師として、救急の初期対応ができるよう、知識や技術をしっかり身につけなければいけない」



ということ。目の前に、命の危険が迫っている患者さんがいたら、ビビったり、手を抜いたりすることはできませんよね。どう診断し、どう治療するか。自分で考え、動けるようにならないと、その先にある社会的背景と向き合うことはできません。

救急の現場では、一人の患者だけでなく、同時に複数の患者のマネジメントが求められます。また、ときには患者の自宅を訪問したり、救急車に乗ったり、病院外で災害訓練の指導をしたり、社会や地域、多くの人と触れ合いながら仕事をするのがERの特徴です。



Next page

「要領の良さ」と「本質を見極める力」を養っておこう

学生時代の“学び”について、お話ししたいと思います。医学部に入ってから進級し卒業するためには、大学で医学を学び、たくさんの試験に受からないといけません。私は学生時代（今も？笑）優等生ではなかったのですが、各講義の試験に受かるのに大変苦労をしました。卒業試験に受かるのに時間を要したため、医師国家試験の勉強に時間を割くことができませんでした。そのため、“今日は奇数を解く”と決めたら、奇数問題だけに取り組む。そうして1冊の問題集を短時間で終わらせ、全く手がついていないジャンルをなくすようにし、要領よく試験勉強に取り組みました。救急医になった現在も忙しい中で、要領よくポイントを抑える勉強スタイルは活かされています。

その一方で、「自分の人生をどう生きるか?」「社会や経済の仕組みはどうなっているのか?」そういった根源的な学びが学生時代には必要です。私自身難しい哲学や経済学の本を読んだり、同じ個所を何度も読み、1冊の本を読むのに何日もかけたり、仲間と“あてもない、こうでもない”と議論したりしました。“タイムパフォーマンス（タイパ）”なん

て言葉が生まれる慌ただしい時代だからこそ、学生時代にじっくり学び、自分に向き合い、人生の指針になるような学びを経験してほしいと思います。

決して見放さない、放り出さない。そのかわりが社会を動かす。

また、学生時代に、どんな医師になりたいのか、自分なりの医師像をもつことも大事です。そのためにぜひ、社会的な経験の中で自分と向き合ってほしいと思います。たとえば、何らかの病気で苦しんでいる患者さんやご家族に話を聞き、リアルな実態を知るのもいいですね。また、一人で悶々と考えず、仲間と議論をすることも大切です。私は学生時代、全国の医学生、医療系学生が集まって学び、交流する全国医学生ゼミナールに所属し、「これから医療はどのようなのか」と熱く議論を交わしていました。また、医学部自治会の全国組織である医学連（全日本医学生自治会連合）の委員長として、世の中の医療を良くするためのさまざまな活動に、仲間たちと取り組んでいました。これらの経験は、現在の自分の

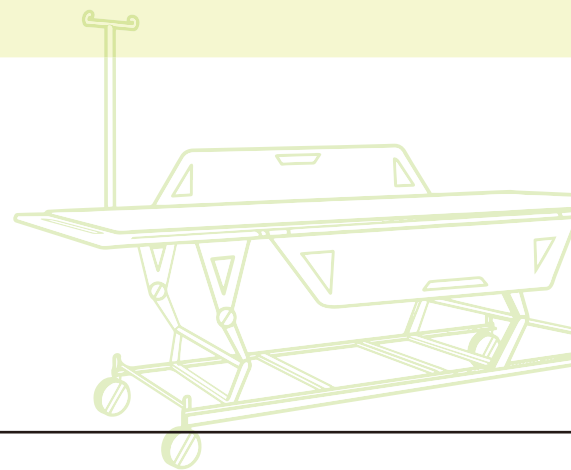


芯になっています。

どんなに信念や熱意をもっていても、その患者さんに使える制度がなかったり、生活改善につながらなかったりして、無力感を覚えたり、やりきれないことはたくさんあります。スタッフみんなで懸命に処置をしたけれど、翌日亡くなった、ということもあります。

けれども、結果がすべてではありません。決して患者さんを見放さない、放り出さない。結果が目に見えて変わらなくても、一人の相手に対して、何とかしようと努力した、という事実が大切です。そのかわりが社会を動かす一歩になります。

医師という職業は、さまざまな重責ややさしいごじやない現実がたくさんあり、決して甘い世界ではありません。でも、人助けをし、世の中を良くしていくことのできる、非常にやりがいのある仕事です。みなさんの挑戦を応援しています。医療の最前線で、より良い社会をつくっていきましょう。



救急搬送がない時にはスタッフと気軽に話をするこも

医療現場のリアル ～SDH・いのちと向き合う私たち～

50代男性、同居家族から関係を拒絶されたケース

Case study 【医療現場での事例】

Yさんは地域で生活困難者などの見守り活動を行っている方に付き添われ受診しました。Yさんは会社の健康診断で指摘された糖尿病を長い間治療しなかったため、合併症による血流障害で右足親指の壊疽（えそ）を起こし緊急入院となりました。なぜYさんは糖尿病をそこまで放置してしまったのでしょうか。Yさんは妻と娘の3人家族、元々は建築会社で正社員として働いていました。しかし、不況のあおりを受け20年程前に人員整理で解雇されてしまいました。その後は派遣労働者として建築業の仕事に従事しながら生活してきたのですが、派遣の仕事は毎日のようにあるわけではなく、次第に経済的にも厳しくなり妻から離婚を迫られ、応じました。しかし、安定した収入のないYさんは家を出ることができず、別れた妻と娘の住むアパートの部屋を間借りさせてもらい同居生活を続けていたのです。

入院後元妻は「これ以上関わりたくない。退院後は家に戻らず、

出て行ってほしい」と言いました。Yさんも「これ以上迷惑はかけられない」という気持ちがあったため、生活保護を受給して生活を再建することにしました。入院中に生活保護受給が認められ、治療とリハビリテーションを行いながら、新居を見つけ退院後は新しい家へと帰っていきました。

第2種社会福祉事業として本事業を開始してから、9年が経過しました。2015年～17年度の3年間に利用した707事例のうち14事例をまとめ、2019年5月に「いのちと向き合う私たち～無料低額診療事業からみえてきたこと～」を発行しました。



この事例から、みなさんに伝えたいこと

ー現場に立つ医師よりー

読者の皆さんは「日雇い労働」についてどのくらい知っていますか。正規雇用と非正規雇用の違いはなんとなく耳にしたことがあるかもしれませんが。日本の雇用形態はこの20年ほどで大きく変化しています。1999年に労働者派遣が原則自由化、2004年には製造業でも派遣労働が解禁されたことが影響しています。

なお日雇い派遣（30日以内の短期派遣）は、究極の低賃金・不安定雇用のため、ネットカフェなどで寝泊まりする「ネットカフェ難民」が社会問題となり、2012年から原則禁止されましたが、現在は、看護師の日雇い派遣が解禁されるなど再度解禁への動きがあります。またコロナ禍になり非正規雇用者の契約打ち切りや雇止めが起きており、雇用が不安定な労働者が大きな影響を受けています。

みなさんが医療従事者として働くときには、患者さんの仕事の話をしるのももちろんのこと、雇用形態にも関心を持ってほしいと思います。それが、患者さんの受診控えの原因（医療費が払えるかどうか）や、生活不安の原因になっているからです。

それらを解決するのは医療者の仕事ではないと考えるかもしれませんが。しかし「上医は国を医し、中医は人を医し、下医は病を医す」という中国の格言や、医学教育モデルコアカリキュラムにも「SDH」が学習目標として設定されています。

SDHとは?

健康は遺伝子や生活習慣などの生物学的要因だけで決まるのではなく、成育歴・労働環境・所得・人と人のつながりなどの社会的背景も関与しており、これらを「健康の社会的決定要因（SDH = Social Determinants of Health）」といいます。医療生協さいたまでは、SDHに着目したHPH活動や社会保障拡充のための活動を通じ、健康格差の縮小を目指しています。

原因不明の体の不調には、背景に困難な状況が隠れていることも。医療生協さいたまでは、本人の気持ちに寄り添い、ときには医療を超えた支援も実施しています。

松村綾先生 —レジデントロード・私の7年目のカルテ—

Life History

高校1年生
本格的に医学部を志す

2008

聖マリアンナ医科大学 入学

2011

聖マリアンナ医科大学 卒業
埼玉協同病院 初期研修 開始

2016

埼玉協同病院 初期研修 修了
埼玉協同病院 内科専門研修 開始

2018

— 3月
埼玉協同病院 内科専門研修 修了
— 5月
内科専門医試験 受験
— 7月
内科専門医 取得
産休・出産・育休

2021

育休明け復帰

2023

◆ 医師を志した理由

父が医師、母が看護師という家庭に生まれ、小さい頃からなんとなく医師になることを意識していました。心を決めたのは高校1年の時。ドキュメンタリー番組で海外では小さな子どもが労働力として扱われているのを見て強く心を痛めました。そういう子達が幸せになるにはどうしたらいいだろう、そもそも幸せを感じられる前提に“健康であること”が大事なのではないか。それならば私は医師として人の健康に携わりたいと思ったのがこの道を選んだきっかけです。

◆ 埼玉協同病院を選んだ理由

埼玉協同病院を知ったきっかけは大学の同級生に勧められて病院見学をしたことです。実際にきてみるとスタッフの皆さんが優しいことや患者さんとの距離感が近いことに魅力を感じました。医師としての実力もつけられると感じ研修先として決めました。

◆ 内科の道に進んだ理由

地域の中で患者さんや家族に寄り添う医療が好きなので当初は家庭医を志していました。しかし研修の中で1人1人の命の重さを感じ、それに対して責任をもつということを考えた時、自分の中で何か一つ専門をもって限界まで治療を経験したいと考え内科に進みました。ただ協同病院は地域に根付いた病院なので後期研修期間も地域に寄り添った医療も学ぶことができ、私にとっては一石二鳥でした。

◆ 出産・育児について

経歴だけ見ると専門医資格取得後、妊娠出産と順風満帆にみえてしまうのですが、何年も子どもを授からず思い悩んだ時期もありましたし、妊娠後もつわりがひどかったり切迫早産で入院したり、産後も脳卒中を起こしかけたりと予想外の連続でした。育休は一年取りました。長く仕事から離れる不安はありましたが、実際娘の成長を間近で見守ることができたのはかけがえのない経験でした。妊娠出産は本当に人それぞれなので自分のタイミングを大切にしていけることが重要だと感じました。

◆ 今後の展望について

全く見通せないのが実情です（笑）
どうしても妊娠出産や自分の健康問題など思った通りにはならないことが絡んでくるので私も常に悩んでいます。ここから10年の間のどこかで子どもをあと何人かもてたいいな、その合間で呼吸器内科の専門資格をとりたいいな。そのくらいぼんやりの中を進んでいく予定です。ただ“ヤブ医者にはなりたくない”という思いは常にあるのでその時できる最大限の努力をしていければと思っています。

高校生・
医学生に
伝えたいこと

働き方改革や男女平等が叫ばれている今日、未だ女性医師がキャリアを積んでいくことには困難がつきまとうのが現状です。皆さんも今後沢山壁にぶつかるといいます。しかしその都度真摯に向き合うことが皆さん自身の糧になりますし、医

師として働いていくことが女性医師の働き方を切り拓くことに繋がると考えます。大変なことはもちろん沢山あるけれど、医師として働くことは楽しいし、私の誇りです。なので臆せず、医師を目指してください。一緒に頑張りましょう！

Terashima Mariko

寺島 萬里子 Dr

後編

インタビュー

〡 川口地域の住民とともに

外来診療と共に往診は欠かす事が出来ません。はじめは自転車で、次にバイクを買い、その次に「スバル360」という軽自動車を使いました。当時はまだ未舗装の道路も多く、時々車はパンクをして看護師さんと女手二人でタイヤ交換をしていると、わざわざ車を降りて来て、手を貸してくださる方もありました。川口の人は職人気質というか、思ったことをずけずけ言う人が多く「往診に来るのが遅い」などと文句を言われる事もありましたが、その場が終わればあとには残らず、むしろ付き合いやすい人たちでした。診療所の一番の問題は医師不足でした。「医事新報」で川口在住の日本大学の内科医が週2日のアルバイトを希望しているの

川口診療所初代所長の寺島萬里子医師です。医師人生を振り返る寺島先生のお話を瀧井医師(家庭医専攻医)が聞きました。前編では戦後の混乱の中で東京女子医専を卒業し、インターン、大井医院勤務を経て川口診療所に赴任「鑄物の町」川口で鑄物労働者の職業病「塵肺」に向き合い奮闘した様子をお届けしました。



を見て、事務長がすぐにお訪ねしました。大きな邸宅で、ちょっとひるんだそうですが、幸い川口診療所の理念に共感を示され、まず二人が週二日ずつ来ていただけることになりました。

先生は次々と優秀な先生を川口診療所に招いてくださって、おかげで私は診療所に居ながら新しい医療を吸収して医学の進歩に何とかついていけたし、先生方はパート医師という枠を超えて「川口診療所」の先生になってくださいました。その中で内山先生は日本大学を退職した後川口診療所だけでなく埼玉協同病院の指導医としても大きな力を出していただきました。

〡 患者として川口診療所とともに

今私は川口診療所の患者になり「降圧剤」を服用し、真面目に通院しています。最後まで川口診療所・医療生協さいたまのお世話になることでしょう。省みて悔いのない一生だったと嬉しく、ありがたく思ってい

ます。職員・患者さん・地域の皆様に感謝です。十分に働き、楽しみ生きた人生に満足して居ります。

〡 瀧井医師インタビュー感想

今では当たり前前のが、当たり前でなかったとき。いうなれば医療の黎明期を駆け抜け、その時代を強くたくましく温かく、人に寄り添いながら歩まれていたことを教えていただきました。初対面で若輩者の私にも関わらず、肩を寄せて、視線をあわせてお話をしてくださいました。「あの時は面白かったわね」と笑顔で言えてしまうそのお姿に敬服します。そんな先生が大切にされてきたことは「大衆のためにあること。大衆の声を直接聞くこと。診療所の中心は医師ではない」ということでした。これからもこれが受け継がれていけるように診療でできることを考えていきたいと思っています。

Book review [ブックレビュー]

「人は人を浴びて人になる」

夏苺 郁子 著

■ 統合失調症の母親を持つ家族として、精神疾患の患者本人として、そして精神科医として。そんなトライアスロンのような人生を送ってきた夏苺先生本人が、回復に至るまでの12の出会いが綴られています。先生の生い立ちを通して、3つの立場それぞれを知ると共に、タイトル「人は人を浴びて人になる」の意味を考えさせてくれます。
■ 「私の人生の不公平は、母の精神病の発病から始まりました。過酷な体験は、その人の風貌にも人格にも影を落としてしまいます。私は青年期になると、父も母も殺したいと思うようになりました」このような書き出しで、この本は始まります。統合失調症の母親、家庭を顧みない父親のもとで育ち、ネグレクトされた、灰色の少女時代。いじめも経験し、高校卒業後はオーバードーズ（薬物過剰摂取）、摂食障害、投げやりな性遍歴、依存症、精神科入院など壮絶な医学生時代。気付いた時には自分を見失い、2度の自殺未遂まで起こしてしまいます。

■ 自分がもし、このような状況下であつたら？精神をむしばまれずにいられるだろうか？ここからどう立ち直っていけるのだろうか…？と追体験せずにはいられません。
■ 暗い体験も多く、自分たちとは程遠い世界だと感じるかもしれませんが、しかし、夏苺先生が回復に至るまでも含め、その体験一つ一つが、人の言葉が、心の動きが、行間にいる私たちに重なる思いがし、勇気づけられます。そして、『時間薬』『アート薬』『人薬』いろんな薬で癒されていくのだということ、『回復には締め切りがない』ということ、人は案外、不完全でいいのだと心を穏やかにさせてくれます。
■ 医療従事者、家族、当事者として必読であることはもちろん、人と人の関わりの中で生きる私たちへの珠玉の一冊です。

東京女子医科大学3年 八重幡萌加





進路アンケートのご案内！

2023年4月からの進路を回答してくれた方、全員に新生活応援
図書カード500円分プレゼント！

対象 2022年度大学受験生の方
回答期限 4月30日(日)

回答は
こちらから



医学部新入生企画

対象 2023年度新入医学生

①医学部入学前実習

医学部入学前に病院・診療所で医師の仕事
見てみませんか？教育研修センター
(SKYMET) のホームページよりお申込みく
ださい。HP-URL <https://www.skymet.jp>



②ハンセン病資料館フィールドワーク

日時 2023年3月21日(火祝)13時～17時
患者のみならず、回復者・家族にも及ぶ差別と
偏見が起こったハンセン病。未来の医師として、
このハンセン病について学んでみませんか？



トトロのふるさとWebアンケート

ご協力頂いた方には先着で5名様にQUO
カード(500円分)をプレゼントいたします。
(応募〆切:3/31回答分まで。プレゼント発送
前にメールにてお知らせいたします)



先着で
QUOカード
プレゼント！



医師を志すみなさんへ

奨学生募集

お申込・お問い合わせ先

埼玉民医連・医療生協さいたま
埼玉協同病院 教育研修センター

TEL **048-296-5822**



SKYMET

<https://www.skymet.jp/>



私たちは学ぶみなさんの力になりたい。

奨学生活動は、みなさんの医学生としての成長、医学生生活の充実にきっと役に立ちます。そして大学では学べない学びが沢山あります。奨学生になって、学び、考え、私たちと一緒にこれからの埼玉の医療を支えていきましょう。

貸与金額
月額
80,000円

特別貸付・
入学時特別貸付
あり

返済
免除制度
あり

トトロのふるさと Friends

埼玉の医療を考える会



埼玉民医連の事業所「老人保健施設みぬま」では月に一度コロナ禍や物価高により生活に不便を抱えている方々を対象に無料健康相談と食糧支援の取り組み「フードパントリー」を開催しています。2022年12月には約80名の方が来られ、子ども用のクリスマスプレゼントや冬物のコートが必要とされる方のもとへ届けられました。中にはフードパントリーで配布されるお米の量が減ってしまい元に戻して欲しいという声や炊飯器を持っていないのでパックのご飯が欲しいという声が上がりました。無料健康相談では体調を崩し入院中の夫と無職の息子を一人、パートで養っていた女性から、「限界が来てしまった。生活保護を受給するにあたって世帯分離したいが誰に相談したらいいかわからない」といった相談が寄せられました。

埼玉民医連ではフードパントリーにご参加いただける医学生・高校生のボランティアを募集しています。地域住民の方がどんな暮らしをしているのか、抱えている不安は何なのか様々なことを知るきっかけになりますよ。興味のある方は是非ご参加ください。



健康相談では医師や
医療相談員が
相談に乗ります

フードパントリーボランティア参加者募集！

フードパントリーの
お手伝いして
みませんか？

日時 毎月最終土曜日 13:00～14:00

場所 老人保健施設みぬま (埼玉県川口市)

ボランティア内容 会場設営／食糧・生活用品配布

お問い合わせ先 gakusei@mcp-saitama.or.jp